



# OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第39号 100周年特集号

平素はOB会活動にご協力いただき感謝申し上げます。

年始めより想像を超えた「新型コロナ」の問題が起き、その後は社会生活に大きな変化を求められました。長期の学校閉鎖やOB会活動も多大な影響を受けました。

## ●スペイン研修旅行

本年3月催行予定で、準備も最終段階にきていましたが、2月20日に県教育委員会からの自粛要請があり学校と検討し急遽「中止」を決定しました。選手は本当に悔しい思いをしたと思います。4月には新入生を迎え、「スペイン研修旅行」の一年延期で催行に向け準備を始めました。例年行われる保護者説明会も行えず、文書での連絡となりました。しかし、7、8月に入っても事態は好転せず、ヨーロッパは厳しい状況が続きました。予約申し込み等の問題もあり、早めに決断すべく学校と話し合い、21年3月も中止と致しました。22年3月には催行予定ですが、

## OB会と新型コロナ この二年

### 創部100周年事業 経過報告

OB会副会長 41回生 相羽 克治

コロナの鎮静化を願うばかりです。  
\*現役の年間の3大会、関東大会・総体が中止になり、高校選手権のみ開催となりました

## ●夏のOB会

例年の「夏のOB会」「湘友会セミナー」を8月15日に予定をしていました。コロナ対策も県の指示に従い準備をしていたのですが、他県のサッカー部でクラスターが発生したことなどを受け、万が一のリスクを配慮し直前に大幅な変更を致しました。

現役との接触を避けるため現役は不参加、セミナーは中止とし、OBだけで幹事会や交流試合を実施しました。講演を予定し、大変な準備をされていた清水先生にはご迷惑をおかけし、申し訳なく思っています。日を改めての講演を是非お願いしたいと検討中です。

なお、21年夏のOB会セミナーでは54回生・元監督の藤塚久雄氏の講演予定です。

## ●100周年事業

多人数での会議が難しく、実行委員会では夏の幹事会にて行いました。

・記念誌は昨年会報でお知らせした内容で順調に進んでおり、現在は戦績、名簿等の確認作業を行っています。21年7月には発行の予定です。

・記念式典は予定通り学校の記念式典(21年11月予定)以降で、現在は22年1月を考えています。なお、飲食を伴うパーティではなく、学校ホールでの式典と記念グッズを、と思っています。

・協賛金は2020年11月6日現在で105名の方から206万円お振込みを頂いております。今後も担当・沢田氏からメールにてご案内がされると思いますが、よろしくお願いいたします。なお、後方の一ページに「特別協賛金」の第三次(最終)のお願いが記されています。

今回の会報は100周年特集として、90年〜100年の間に卒業したOBや顧問の方などの寄稿も掲載しています。

百年記念誌に名簿を掲載します。

卒業回数とフルネームです。

(例) 48回 関 佳史

掲載を希望されない方は関東事務局長宛連絡を。  
sekig644@yahoo.co.jp

247-0056 鎌倉市大船5-3-25

\*2021年1月末日迄に必着



100周年特別寄稿

湘南の思い出

元顧問 細川 毅先生

平成23年から27年までの5年間サッカー部顧問としてお世話になりました。その中で、私が一番思い出に残っている試合は、平成27年度の選手権で県8まで勝ち進み、4決めの対横浜市立東校戦です。この代は、キャプテンの砂流君を中心に、個性あふれた素晴らしい選手たちが集まり、負ける気がしなかったチームでした。東戦では、惜しくも0-1で敗れベスト4を逃しましたが、素晴らしい試合をしてくれました。確かにこの試合で、藤尾君が相手選手と空中で激突し、救急車で運ばれたことを覚えています。彼はその後頑張りと、筑波大学に現役合格をして、大学でもサッカーを続けたようです。今、またあのチームで戦ったらどこまで行けるかな？なんて想像しています。

100周年特別寄稿

湘南サッカー部に思う

顧問 遠藤 真一先生

OB会の皆様には、いつも多方面にわたり多大なご支援をいただき大変感謝しております。

竹谷先生とともに2014年度に赴任し、もうすぐ7年になります。セカンドチームの引率・遠征では、長コーチ・町田コーチには大変お世話になりました。特に、横浜創英高校と早朝練習試合をした鹿島ハイッでの夏合宿は思い出深いです。あの夜の縄跳びトレーニングのメニューは、伝統になりつつあるようです。微力ながらサッカー部に関わって参りましたので、思ったことなどをまとめてみました。

最初に感じた疑問は、どのようにして戦えるチームに育つのかということでした。県内屈指の進学校でありながら、サッカーでも結果を残せるのはなぜか。文武両道が理想ではなく実現可能な歩むべき道であると理解するまでには時間がかかりました。

赴任してすぐ、関東大会2次予選がありました。海外遠征から帰国したばかりでコンディションが万全ではないにもかかわらず、90回生を中心に粘り強く、集中力を持続させて戦っていました。この大会を通して、集中力、修正力、自律心など湘南生が他校の生徒よりも優っていると感ずる部分は多くありました。しかし、それだけが勝ち進める要因だとは思えません。その後、90回生の代は選手権予選ベスト16、91回生の代は関東予選・総体予選ともにベスト16、選手権予選はベスト8、92回生の代は、関東予選ベスト8と、強豪校との緊迫した戦いの中で、自信を持って堂々と自分たちのサッカーを見せてくれました。

湘南高校が勝ち進み、戦えるチームに育つ理由は、サッカーへの真摯な姿勢の根底にある自分の生き方に対するプライドなのではないかと思うようになりました。自分のあるべき姿をしっかりと持っていて、それを簡単にあきらめたり妥協したりすることがない。理想や目標というより自分を形づくる核みたいなものと同じ目標を持つ仲間と高め合っていると感じました。

私は、「学ぶ」ということは、「刺

激を受けて変化すること」だと思っています。良い刺激を受けると、生徒は自ら考え・主体的に動くようになる。湘南高校で指導するようになって実感しています。自分のあるべき姿を高めるための刺激が湘南高校サッカー部にはたくさんあります。それが強さの要因であり、他校との決定的な差なのだと思います。

具体的には、フィジカルトレーニングやコンディション指導を通して、部員は自分の身体の理解を深め、より良い状態でサッカーができるように主体的に行動する大切さを学んでいます。また、関西遠征や八千代遠征、休業中のフェスティバルへの参加は、技術だけでなく自分たちを客観的に捉える機会になっています。そして、海外遠征と事前研修という貴重な体験を通して、価値観や人生観を広げ、グローバルに活躍する将来の自分を具体的にイメージするのではないのでしょうか。多くの刺激・経験を通して部員たちは自信をつけ、その自信がポジティブな自己の生き方・在り方を形づくっているのだと思います。

自分のあるべき姿をしっかりと見据えることができる。だからこそ、サッカーだけではない高いレベルで



の文武両道が実現できるのだと思います。困難な道ではありますが、部員達には、その道を歩き続けてほしいと思います。部員一人ひとりの真摯な姿勢に、関わった多くの人々が勇気づけられ励みにしています。これから応援しております。



## 現役時代の思い出

湘南サッカー部との関わりは、現役3年間をはじめ、卒業後のOBコーチ（大学在学中4年間）並びにトトカルチョ湘南への在籍（10年間）など、現在も続いております。トトカルチョでは年代こそ異なりますが、当時の話に花を咲かせることがあります。そこで、高校サッカーで大きなイベントの総体、選手権の記憶を掘り起し、記すこととします。

戦術は一貫して、守備から入り少ないチャンスを実践に取りに行くものでした。そのため、後述するここぞという試合では（1試合を除き）、ロースコアで拮抗した試合が多くあ

りました。

1年次の総体予選では、3回戦で湘野辺に0-3で完敗。技術の差は大きく感じませんでした。相手選手の手やスピードに押し込まれました。この敗戦は、従来多くの部員にとつて部活動生活の区切りとなり、「XX先輩は選手権まで残るの?」という話が飛び交っておりました。（この年は、約8割が引退）

選手権は、スタメンの若返りを図り（3年…3人、2年…4人、1年…4人）、1次の3回戦は当時公立で強豪の藤沢西と対戦。試合を優勢に進めたのはフレッシュな湘南で、前半を1-0で折り返し。湘南はチャレンジャーで、かつ若手は失うことを恐れず躍動できたのが要因でした。しかし、経験値には勝てず、後半はミスから失点し、主導権を奪われ1-2で敗戦。藤沢西は「焦らず、チャンスがくるまで我慢」を徹底していたのだと思います。これは、わたしが2、3年次の拮抗した試合でいつもご指導いただいております。

顧問が代わり（清水先生→小林先生）、新体制で臨んだ2年次。個人の基礎力向上、チーム戦術の型醸成に取り組み、安定した2次進出を果たしました。1次突破のためには、

ここぞとなる試合で力が上の高校との対戦を勝ちきる必要があります。2、3年次は、この場面を先輩に見せられたことは大きな成果だと思います。（2次での初戦を勝つのは難しかったです…）

スタメンは2、3年生で半々の構成。総体は、1次の3回戦で武相に0-1で敗北。ここが「山場」でしたが、勝ち切る力は新生湘南にはまだ備わっていませんでした。選手権の1次決勝は慶應藤沢と対戦。炎天下、体育祭ムードのホームで2-1で勝利。（いま思えばよく走っていた…）夏休みは顧問変更に伴い、関西遠征で大学体育会や強豪高との対戦等、熱のこもった人口芝で、スピードと体格に圧倒されながら奮闘の連続でした。2次直前に問題が発生。スタメンのわたしは感染症を患い約2週間休部。夏休みで増強した（はずの）身体は5kg減り、細々と復帰。初戦の逗葉戦は、メンバーの活躍で勝利。2回戦は県立横須賀。当時、2次に出場する公立高校は少なく、前評判は互角。接戦の末、1-2で敗戦。病み上がりで試合は動きが悪い記憶しかありません。当時は「迷惑をお掛けしました…」

3年次、総体1次決勝は湘南学

院。部員は50人強、ピッチサイドから応援歌。入部時には想像もつかなかった光景でした。試合は点の取り合いで、延長の末5-5でPK戦へ。わたしは5人目（後攻）のキッカー。四方からの声援の中、「おおかわ〜お願い〜」とひととき高い女性の声が。負ければ引退となるマネージャー。そ、そんな大きな声でプレッシャーを…と思いつつも脚の震えを抑え、なんとか成功。その後相手が失敗し、勝利。守備でチームを作りあげてきたこと、得点力に自信がなかったことを考慮するとよくぞ勝ち切ったという記憶に残る1戦でした。2次初戦は湘工大附属に敗戦（0-1）し、3年生の半分は引退。

選手権は1次を難なく突破し、2次初戦は日大藤沢。まとわりつく残暑の中、ボールを繋かれ、走り回され0-2で敗戦。スコア以上に力の差を感じました。試合後の先輩の涙は、頼もしい姿を見せられた結果なのか…と思いました。

挨拶が印象を決める、基本スキルの徹底、周囲からの見え方（所属団体の看板を背負っていることの自覚など、サッカーを通じて社会人生活にも活かせる学びを数多く得ることに感謝申し上げます。そして、みなさ



まのご活躍と発展を祈念しまして、ここで筆をおきたいと思えます。



湘南サッカー部の100周年に心からお祝い申し上げます。また湘南サッカー部100周年誌の寄稿という貴重な機会をいただき感謝申し上げます。86回生の石川恭一郎です。簡単に自己紹介から始めます。

私は藤沢市内の中学校から湘南高校に進み、3年時は主将を務めました。卒業後は東京学芸大学へと進学し、4年間蹴球部に所属しました。その間には教育実習生として湘南高校に戻った期間もありました。卒業後はOBコーチとして2年間、指導に携わらせていただきました。現在は高校の教員として自チームとトレセンの指導者活動の傍ら、審判活動にも力を入れ、先日2級を取得したところです。また、選手としてもトカカルチヨ湘南で活動させていたでいます。様々な形で関われるサッ

カーの素晴らしさを現役時よりさらに感じているこの頃です。

さて、現役の思い出というテーマですが、私が湘南サッカー部に入部した時は、サッカー部の顧問が清水先生から小林先生に代わるタイミングでした。1年生は2、3年の練習する端っこで基本練習をひたすら行い、練習後にはミニゲームをする機会がありました。1年生の頃から練習を見てもらい、6月頃には先輩と一緒に練習を行い、とても恵まれていました。練習内の走りはとてもきつかったですが、自分たちがどんどん上達しているのが感じられました。選手権の1次予選を7年ぶりに突破して2次予選に進み、1回戦で前年準優勝の逗葉を破った試合は最高の思い出です。

新しい代になった時に私は先発で試合に出る機会が増えて、とても楽しかった記憶があります。初の公式戦となった湘南地区の新人戦では日大藤沢を破って決勝進出し、現J1川崎の下田選手擁する大清水に2-3と敗れましたが良い試合ができました。その後もベルマーレや流経柏などの有資格上チームと練習試合ができて非常に充実していました。夏合宿では山中湖で一生の記憶に残

るくらい走りました。絶対に昨年より良い結果を残せると思い選手権に臨みましたが、2次予選の初戦で日大藤沢と当たり、私も先発しましたがHTで交代するなど精彩を欠き、0-2で敗戦しました。悔しくて情けなくて力不足を痛感させられた試合でした。

ついに私の代となり主将として取り組んでいましたが、私の代は中学時代にトレセンだった選手も少なく、厳しい戦いが続きました。1月の新人戦の中央大会で現J1札幌の福森選手擁する桐光学園に完膚なきまでに叩きのめされたのが苦い記憶として残っています。春休みにはスペイン・イギリス遠征に行かせていただき、現レアルマドリードのモドリッチとバイエル擁するトッテナムの試合やビルバオの試合を見たり、イギリスの大学生と英語で話しながら一緒に観光地を周ったり、と大変充実した遠征でした。しかし、帰国後の公式戦の結果は振るわず、選手権は1次予選ブロック決勝で鎌倉にCKからのヘディングと直接FKを決められて0-2で敗戦しました。当時KSリーグに所属していた鎌倉に善戦はしましたが力不足でした。

当時は選手権の前で辞める部員が

いるのが通例でしたが、私の代は一人も辞めることなく、選手権を迎えました。公式戦で良い結果を残せず、また出番も限られる苦しい状況でも最後まで一緒に戦ってくれた仲間たちでした。湘南サッカー部はこれからも飛び抜けて上手く強いチームにはならないと思えます。だからこそ全員で団結し合い、高校年代最高峰の公式戦である選手権で結果を残して欲しいです。今は一人のOBとしての願いですが、私自身も力を蓄えてまた湘南サッカー部に貢献できる日がきたらと願っております。

末筆ながら、これからの湘南サッカー部のご発展と皆様のご活躍を心より願っております。



湘南サッカー部では、現役とOBコーチで計7年間を過ごし、その日々はかけがえのない財産になっています。社会人生活を送っている中でも、何かにつけて、湘南サッカー部での



出来事が蘇ることが多々あります。現役時代のサッカー部での日々（練習、大会、海外遠征）を振り返ってみたいと思います。

練習は、小林先生のご指導のもと、徹底した基本練習の日々でした。二人組のヘディング（試合を想定して大きな声を出しながら）、1対1、2対1、2対2、ゴール前のクロス対応（「同一視」という名前のメニューだった）など、サッカーの試合からエッセンスを抽出したような基本を3年間、毎日繰り返しました。3年時のU18 K2リーグ（年間のリーグ戦で当時K2リーグは3部に相当）では、全試合無失点で優勝し昇格を決めたことは、この練習の成果だと思っています。

3年時の大会の戦績は、関東、総体、選手権全てでベスト16でした。関東は藤沢清流を相手に1点リードして試合終了間際にセットプレーの流れで同点に追いつかれ、PK戦で敗退。（藤沢清流は優勝して関東大会本選でも準優勝）総体は桐蔭学園を相手にボール支配されながらも、クロスバーに当たるチャンスもあったが決めきれず、延長戦で2点決められ敗退。そして選手権は、前年も同じベスト16で対戦した向上でした。

リベンジの気持ちと、三年間の集大成で自信をもって臨みました。試合は拮抗した展開で延長戦までもつれましたが、延長後半に2点許し敗退。どの試合も、圧倒的に力の差があったて負けたという感覚がなく、それが余計に悔しかったことを思い出します。目標としていた全国の舞台に立つことはできませんでしたが、本気で目指し、仲間と切磋琢磨したことはかけがえのない経験です。

スペイン・ロンドン遠征は、とにかく貴重な体験でした。まず、私にとっては海外に行くこと自体は初めてで時差ボケに始まり、文化、食事などすべてが驚きの連続で、今までの当たり前が覆される瞬間が凝縮された時間でした。（ストライキにより急遽バルセロナにも行けたトラブル？幸運？もあり）その中でもやはりサッカーを通じたイベントが何よりも印象に残っています。リーガエスパニョーラ、プレミアリーグの観戦、スタジアムツアー（レアルマドリードのサンチャゴベルナベウ、バルセロナのカンプノウ、アスレティック・ビルバオのサン・マメス）、そして現地チームとの試合、特にアスレティック・ビルバオの素晴らしい練習施設「レサマ」で、ユースチー

ムと対戦できたことは最高に幸せな時間でした。

湘南サッカー部での日々は、当時は自分自身のことでも無我夢中でしたが、卒業して時が経つほど、どれだけ恵まれていたのかとつくづく感じています。これも先生、OBの方々をはじめ多くの方の支えていただいていたからこそだと実感しています。今後もOBの立場から微力ながら様々な形で湘南サッカー部に貢献していくことができたいと思います。



### 現役時代の思い出

私の現役時代の一番の思い出は一年生の3月に行った、スペイン・イギリス遠征です。もともと湘南高校を受験しようと思ったのも、湘南サッカー部で活躍していた中学時代の先輩からスペイン・イギリス遠征があることについて聞いており是非行きたいと考えていたからです。そのため私はヨーロッパ遠征をとっても楽しみにしていました。その中で特に印

象に残っていることを二つ書かせていただきます。

まず一つ目は、スペインのアスレティック・ビルバオのユースチームとの試合です。ビルバオはバスク州に本拠地を置いており、トップチームはリーガ・エスパニョーラ一部に所属しております。クラブに所属する選手がバスク人に限定されている特殊なチームで、現地の子どもたちはクラブに入るために一生懸命努力をしていると聞きます。私たちは試合のために練習場に行かせていただいたのですがそこでまず環境の良さに驚かされました。何面もの芝生のグラウンドが並んでおり、実際に私たちが試合をしたグラウンドも人工芝の下に土が敷かれている当時の最先端のグラウンドで、とても良い環境の中で試合をさせていただきました。試合の結果は、ボロ負けでした。電が降る中での試合だったので、湘南の選手が濡れたピッチで足を滑らす中ビルバオの選手は滑らずに、さらにそのピッチコンディションの中でも個人技を見せ、パスをつなぎ気づけば大量失点していました。電のため試合が途中で中断してしまつたのですが、結果的に7点くらい取られていたと思います。自分の同年

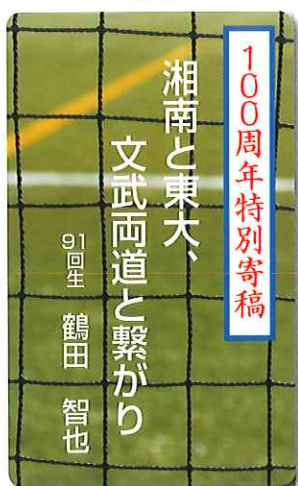


代（中には年下だろうと思われる選手もいました）でここまで体格・技術ともにかなわない選手がいるのかと思ひ、今までで一番悔しい思いをしました。

二つ目は、現地でのプロサッカーの観戦です。もともとスペイン・イギリスではサッカーが強く日本よりも活発なのは知っていましたが、ここまでレベルが高く熱狂的なのかと驚かされました。まずはサッカーのレベルの高さに終始圧倒されています。一つ一つのパス、球際の強さ、プレーの正確さ、スピード感どれをとっても世界最高レベルで、生で観ることができたのはとても貴重な経験でした。また、それと比例するようにファンも日本のそれとは違いました。まず、スタジアムの造りから、ファンとピッチの距離がとても近く一つのプレーに対してファンの反応も違います。夜遅くのキックオフで時差ほけも重なり観戦中に居眠りしてしまう生徒がいたのですが、それに対して熱狂的なファンの方に「ちゃんと観ろ！」と注意されていたのをよく覚えています。またすぐく印象的だったのは、スペインの観客は試合中ヒマワリの種を食べるのを足下に積み上げます。

このようにサッカー以外にも国によって文化の違いがありそういった面でも貴重な経験でした。

その他にも現地の学生との交流や、レアルマドリーのホームスタジアムであるサンティアゴ・ベルナベウのスタジアムツアー、ヨーロッパの世界遺産などの観光地の観光など非常に貴重な経験をさせていただきました。このような経験は普通の高校のサッカー部ではできないことです。支援していただいたOBの方々には非常に感謝しております。次は自分が現役に対してサポートしていきたいと思ひます。



平素よりお世話になっております。91期の鶴田智也です。現在は東大ア式蹴球部（サッカー部）に所属しています。

私が東大サッカー部のことを聞いたのは高校二年生の時でした。チームの絶対的エースであった工藤先輩

が既に東大で活躍されているということを知ったのが初めてだったと思います。浪人が決まった時、湘南の先輩がいる東大を目指そうと決意し、私も東大サッカー部へと入部しました。東大サッカー部と湘南サッカー部の繋がりは深く、100年の歴史の中で交流があるだけでなく、近年では85回生の榊原先輩を初めとして湘南サッカー部OBが東大サッカー部で活躍されています。

湘南以外にも東大サッカー部に優秀な選手を送り出している高校は他にもあります。しかし、多くの進学校では校長先生や顧問の先生の異動の影響、部員数の大幅な減少、学業とのバランスなどから部活の優先度が下がる風潮にあり、サッカー部の伝統や歴史を受け継ぐのが難しいようです。そのような状況下でも、湘南が県下の強豪校と互角以上に闘う姿はOBとして誇らしいです。これは、守備を固めて走り負けない湘南のサッカースタイル、サッカーに対して日頃から真剣に向き合い続ける現役の努力、そして何よりどんな時も現役を強気に支援してくださる湘南サッカー部OB会の力があってこのことだと思ひます。

東大サッカー部への入部者が増加

している理由として文武両道の精神があるのは間違いありません。サッカーに打ち込んだ先輩が志望大学に合格する背中や部員同士の日々の切磋琢磨が、文武両道の精神を今日まで湘南に根付かせているのだと思ひます。実際、近年の湘南サッカー部からは毎年、現役東大合格者が出てくるようです。（私は現役の時受けた大学全てに落ちましたが。）

しかし、進学校の中でも湘南のように最後まで部活をやり抜く高校は珍しいようです。東大サッカー部の多くは高二や高三のインター杯で引退した人がほとんどです。私は湘南のように選手権までやり抜くのが当たり前と思ひ込んでいたので、これには大変驚きました。湘南出身の部員は高校でサッカーをやり切つて、なお大学でも本気のサッカーをするという心構えがあります。高校で真剣にサッカーしてこなかったから、大学で最後に全力のサッカーをしたいと考えて東大サッカー部に入部する者もおり、部活も学問も全力で行うのが当たり前という湘南の心構えは東大サッカー部の刺激になっています。

湘南から入る選手は東大サッカー部にとって大きな戦力です。湘南の主軸であった工藤先輩や中村先輩は、



東大でも下級生の頃から主力としてチームを引っ張ってきました。今年入部した笹森と竹内はすでにAチームへと上がり期待の新戦力です。

東大は大学サッカー最高峰の関東リーグを目指し、日々闘っています。また、年に一度京大との定期戦（両校のチームカラーがともに青であることから、双青戦と呼ばれています）もあり、こちらも負けられない闘いです。京大サッカー部にも湘南出身の部員が在籍し、湘南出身の選手の応援に同期が駆けつけるなど互いのプライドをかけた熱い闘いが繰り広げられています。湘南現役の皆さん、東大で大学サッカーに挑戦してみるのはいかがでしょうか。

湘南OBとして、また東大サッカー部員としてこれからの湘南サッカー部と東大サッカー部の活躍を楽しみにしています。湘南現役の皆さん頑張ってください！



タイトルに「夏」とあるが、2015年度の選手権のベスト8で僕らが市立東に敗れたのは10月24日の秋のことだ。だが横須賀リーフスタジアムで試合終了の笛が鳴り響くあの瞬間までが僕らの高校最後の夏だった、そんな気がする。

近年、未踏のベスト8は試合前のロッカールームからみんな硬かったように感じる。どこかいつもの自分たちよりすごいプレーをしないと次にはいけない、そんな雰囲気だった。

主力だった3年は2年の時からスタメンだったメンバーが多く、過去3大会連続でベスト16で敗退した悔しさを胸に最後の選手権に臨んだ。

不動の3年に刺激を与えてくれる2年生と少数ながら部を支えてくれる1年生と共にベスト32、16と勝ち上がって27年ぶりの選手権ベスト8の舞台にたどり着いた。ベスト16では残り10分まで負けていて「もうダメかもしれない」と頭をよぎったが、それまで悔しい思いをしていた奥村の活躍や勝負強い藤尾のおかげで横須賀でベスト8のキックオフの笛を聞くことができた。

前半はロッカールームを出た時からの硬さが抜け切れず、早々に失点を喫してしまう。その後も自分達ら

しいプレーをできないまま、ハーフタイムを迎える。ハーフタイムを経ても大きく流れを変えることはできず、東に痛恨のPKを与えてしまい万事休すとなりかけた。しかし守護神岩村が流れを変えるビッグセーブを見せ試合の流れを五分に引き戻してくれた。その後は一進一退の攻防を繰り返したのちに突如試合が止まった。藤尾が相手選手と激突して救急車で運ばれることになり30分ほどだろうか、空白の時間が生まれた。

後にも先にも引退の笛を聞く5分前までに30分の空白の時間を与えられたのは僕らだけではないだろうか。

みんな藤尾の容体を心配すると同時に「あとの残り数分で追いつかなければ苦楽を共にしてきた仲間との3年間が終わってしまう」と、そんな時が止まったようにも感じる不思議な時間を経て、僕らは高校最後の5分に怒涛の攻撃を始めた。藤尾の無念、試合に出れない中でチームに貢献してくれた控えの3年生の想い、部員全員のまだ終わりがたくないという気持ちを乗せて東ゴールに襲いかかった。試合後に声をかけてきた東の選手が「ラスト5分は感じたことがないほど怖かった」と言うくらいに最後の意地を見せた。自分は今で

もラストプレーを思い出す。今岡のクロスボールが、ゴール前に飛び込むかマイナスで受けるか一瞬悩みゴール前に飛び込んだ自分の反対に転がり、相手にクリアされた。なぜあの時逆手に動かなかったのか。あの時マイナスで受けてシュートを突き刺していたればまだあの夏は続いた。引退後の受験勉強の合間に何度考えただろう。こうして最後の夏は幕を閉じた。

もっと上に行けた、ああしておけばよかったと思うことはつきませんが、湘南での高校サッカーの日々は5年経った今でも上記のように鮮明に思い出せるほど充実した時間で、ベスト8を経験した主将としてあの試合をありのままに書き連ねてみました。

当時の部員や竹谷先生以外にも、1年時にAチームで藤尾達を見守ってくれたり、セカンドチームで自分達をのびのびプレーさせてくれた89回の先輩や自分達の代はあまり試合に出れない中で最高学年としての模範的な振舞をみせてくれた90回の先輩、1年時に愛に溢れた指導をしてくださった小林先生、日々サポートしてくれたOB会のみなさんのおかげで僕らは近年で一番長い現役生活を送れたと感謝の想いで今でもいっ



ばいです。

時が過ぎるのは早く、自分もコ罗纳渦の中で新社会人になりましたが、湘南高校サッカー部のバトンは受け継がれいつの日か全国の舞台に湘南高校の名前が轟くことをIOBとして期待しています。



まず初めに、自身の体験を文章としてOB会報に載せていただくという貴重な場を設けていただき、ありがとうございます。拙い文章ではありますが読んでいただくと嬉しいです。

私は現役時代、二度県ベスト8の舞台を経験しました。

一度目は二年生の時の選手権です。私の一つ上の代は実力者が集まっています、周囲からの期待はとも大きかったように思います。自分も主力として出場していましたが、関東大会・インターハイでは、ベスト8の壁に阻まれていました。そのため、

最後のチャンスであった選手権でのベスト8進出は義務のように感じていました。個人的に一番印象に残っている試合はベスト8をかけた大一番・桜が丘戦です。自分は膝の怪我の影響でスタメンでは出ることが出来ず、スーパースブ的な立場でした。一点ビハインドで迎えた後半、自分に出番が回ってきました。先に交代でベンチに下がっていた先輩に、「頼むぞ、絶対勝ってくれ。」と声をかけられたことは今でも鮮明に覚えています。悔しさをあらわにした先輩の姿を見て、この人たちの高校サッカーをこんなところで終わらせるわけにはいかないと思うと同時に、不思議と絶対に勝てるという自信が湧いてきました。その後自分が出場してからチームは二得点し、逆転に成功しました。役目を終えた自分は、途中出場ながら再び交代枠を使ってベンチに下がりました。直接得点したわけではありませんが、負けている状態で途中出場し、チームを逆転に導き再びベンチに下がるという、自分がはたから見えていたらスーパースターのように感じるであろうこの出来事は、今でも自分にとっての武勇伝のように感じています。

この勝利で27年ぶりにベスト8ま

で勝ち進みましたが、その後の東戦で惜しくも敗北し、ベスト4には進出できませんでした。あの時膝をけがしていなければと、今でも悔しさがこみ上げてきます。称賛はありがたいものですが、あの時のベスト8進出は通過点としか感じておらず、先輩方ともっと上へ勝ち進めなかつたことが、残念でなりません。二回目は三年生の時の関東大会です。

最上学年になって最初の大会であった関東大会では、去年の選手権でベスト8に進出した恩恵で強敵に当たることがなく、ベスト8までは無失点で簡単に進出することが出来ました。相手との力関係を考えると当然の結果であったと思います。正直ベスト8までの試合はほぼ記憶にありません。ベスト4をかけた対戦相手は桐蔭学園。ここでようやく明らかに格上の相手と対戦することになりました。当時を思い返すと、先輩方の抜けた穴は大きく、前回ベスト8に進んだ時ほどの自信は持てず

にいました。前半のうちに複数失点しさらにはキーパーが退場するという絶望的な状態に追い込まれ、何とか終了間際に一矢報いるのが精いっぱい、再びベスト4の壁に阻まれることとなりました。二年生の選手

権の時よりはるかにベスト4、そしてその先の舞台が遠く感じた試合でした。

二度もベスト8に進出できたことは大変貴重な経験であったし、大した選手でない自分にとっては十分すぎる結果であったと思います。高校三年間をサッカーに捧げたことを誇りに思えるのはこの結果があつてこそかもしれません。それでも、喜びをはるかに上回る悔しさが当時の記憶からは思い起こされます。この思いが今も、そしてこの先も、自分のサッカーへの熱意の源になるのだらうと思います。

最後になりますが、自分が湘南高校で三年間サッカーに全力で打ち込めたのはOBの皆様のおかげです。この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございました。



94回生の佐藤純です。OBの皆様



の心強いご援助を賜りまして、現在選手が良い環境の中で活動出来ていること、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、現在自分はOBコーチとして湘南高校サッカー部に関わらせていただいておりますが、自分の名前を試合メンバーの連絡の中で耳にされた方は少ないと思います。自分は現役時代のうちほとんどの時間で、ひざのけがを抱え、マネージャーとして活動してきました。そのため公式戦ではベンチ入りした試合は3試合、出場は1試合。自分の怪我について大きな悔いを残す3年間となりました。しかしそれと同時に、多くの貴重な経験をさせていただいた3年間でした。今回は、最高学年での1年間について話させて頂きます。

最高学年でマネージャーとして過ごす中で、チームの事を考える自分と、自分のサッカーを中心に考える自分とのギャップに悩み、つらい時期がありました。このまま選手として自分は戻れるのだろうか、選手からおいて行かれてしまうのではないかと、という様々な不安や悪いビジョンが頭に浮かび、腐らない行動を見せるだけで内心、マネージャーとなることが間違いだったのではないかと

と腐っていた自分もいました。

しかしそこで支えてくれたのは、ともに闘ってきた仲間の存在でした。朝練でリコンディショニングを手伝ってくれ、練習のサポートをともに行ってくれ、練習後の時間を自分のことに充てられるようにしてくれるなど、多くの配慮をしてもらいました。この配慮や自分へのサポートを感じた時に、チームのために自分のできることをしようと決意しました。

ボトルを持ちながら走り、水を入れ替えることでサポートをしながら自身のトレーニングとなるようにしたり、練習試合や紅白戦の主審をさせていただくことでピッチ内の感覚や距離感などを忘れない様にしたたり、とチームの事を考えた行動の中での工夫を行おうと考えられるようになりました。実際にそのトレーニングが良いものなのかはわかりませんが、チームと自分を一つに考えられるようになったことは、自分のターニングポイントとなったと確信しております。

そして3年の夏に入った時期に、自分のサッカーへの考え方が、自分本位のものから、自分の背中の後輩に、どのような境遇からでも這い上がる事ができる、という姿を見せ

たいというものになりました。もちろん自分のために試合に出たいと思っていました。それ以上に自分が選手として活躍することで、後輩に努力し続けることの意味を示すことができるのではないかと考えました。

8月の中旬に選手として復帰してから選手権予選までの一か月、体がうまく動かずブランクを感じながらも、必死に練習に食らいつき、過ぎました。

結果としては、ベンチメンバーには入ることが出来たものの、試合に出ることが出来ずに二次予選二回戦負けと、チームとしても個人としても満足のいく結果を出せないまま引退を迎えてしまったことには悔しさが今でも残っています。マネージャーとしての経験、チームとして戦うことの強さを感じたこと、その中で選手として全力になれたことは、自分の大きな財産となっています。

まだまだ未熟ではありますが、この経験を通じて感じたこと、湘南の強さをこれからの世代に伝え、強い湘南を取り戻せるよう精進させていきたいと思いますので、これからも現役生への変わらぬご支援をよろしくお願いたします。



来年の5月で『湘南サッカー』(www.shonan-soccer.com)を開設して20年になります。これまでの20年の歴史を振り返って記録として残して置きたいと考え、今回OB会報誌へ寄稿させて頂きました。

1. 開設のきっかけ - 2001年  
鈴木先生(当時65歳)から直接私(当時50歳)の自宅へ電話を頂いて、OBのホームページを作れないかとお話が有りました。先生から電話を頂く事など希でしたので何事かと構えて電話に出たことが記憶に残っています。

当時、私は会社のIT部門の管理職をしており、直接ネットを使ったシステムを運用していたわけでは有りませんが、比較的時間が有ったので勉強も兼ねてWEBサイトを作ってみようと考えました。その頃はインターネット革命のどば口で最初にGoogleの検索サイトに出会った時、検索窓だけが有るシンプルなページ



に感動したのを覚えていいます。

その時の『湘南サッカー』のコンセプトは、サッカー部の現役とOBの交流の場とし、内容は現役の活動、OB会の活動、私も在籍していたOBシニアチームの湘南ベガサスの活動、そしてメインの鈴木先生の『中メール』でした。

先生は指導者を引退され、これまでのサッカー指導者としての経験と文章で纏めたいという気持ちが強かったようです。その発表の場としてこのサイトを位置付け、5月にオープンしてその年はなんと17回の投稿が有り、堰を切ったようにご自分のサッカーに対する思いを吐露されました。

## 2. 10年目ー2011年

開設10年で全面リニュアルという事も考えましたが、私の会社生活も最終盤を迎えており、リニュアルは現役引退後と言うことにしました。先生からの中メールが毎月届くのに励まされて運営を継続し、Googleで『湘南高校』を検索すると更新の頻度が多い為か湘南高校オフィシャルページの次にランキング(2011年5月5日時点)されていました。(2020年 月時点20位、進学関係のサイトが上位を占めています。)

翌年には先生が喜寿を迎えられるのを期にこれまで先生が『湘南サッカー』に投稿した文章と画を纏めた『中さんの絵本』がOB有志の手で纏められ発刊されました。

## 3. 全面リニュアルー2014年

私(当時62歳)は現役を引退して時間の余裕が出来たのをきっかけに専門学校へ通い、改めてウェブサイトの作成について学びました。そしてその時点で最もシェアが高かったホームページ・ビルダーというホームページ作成ソフトを使い『湘南サッカー』をリニュアル致しました。この分野の技術の進歩は著しく、継続性を重視してこのソフトを採用しましたが、幸いにして現在も生き残っており、このソフトの使い方を学べば湘南サッカーの運営を担うことが出来ます。

当時のリニュアルのコンセプトは『湘南高校サッカー部及びOBの活動のアーカイブを目指す』で、アナログで残っている資料をデジタル化してこのサイトに加えていく事にしました。例えばOB会報は1号から最新号38号まで(何故か13号だけが欠番です)見ることが出来ます。最近ではOBの皆様が親近感を持って頂くとう卒業アルバムのサッカー部の

の写真を図書館に出向き撮影して、「卒業アルバムから」というコンテンツにしました。

## 4. 今後についてー2020年

ここ数年のITの流れでは情報端末がPCから携帯へ大きくシフトしております。何もかも携帯スマホで済ませられるようになってきています。全面リニュアル時はPCでの利用を前提にサイトを構築しましたが、スマホで見るのは厳しいと思います。これをスマホ対応にすることが当面の課題で有ると認識しております。

また、私(69歳)もいい歳になってきましたので、そろそろ後継者を探さなくてはならないと考え始めています。OB諸氏で手伝ってやろうという方がいらつしやいましたら是非連絡を頂ければと思います。

しかし、鈴木先生が65歳から中メールを始めて、今年85歳で199回目の原稿を頂いた訳ですから、まだまだひよつ子つべこべ言わずにしっかりやれ、とお叱りを受けてそうです。今回この原稿を書く為に今までの資料に一通り目を通したのですが、今の自分の状況を踏まえると、その感想は、中さん、凄いわ、とても敵いません。です。先生からはよくピ

ンピンコロリを目指しているんだ、とお聞きしていますがピンピンで米寿を迎えることを祈念しております。中先生、取り敢えず200回目のメールお待ちしております。

本年9月に34回生番場定孝氏、4月には39回生岡本行夫氏が逝去されました。お二人とも各界で大変活躍された方です。故人を偲んでの追悼文が寄せられました。

### 追悼 番場定孝君

34回生 早野 勝徳

番場定孝君(元神奈川県会議長)は、我がサッカー部34回生(番場丸屋兄、畠山、三戸部と私)の一人です。彼とは、入学して間もなく一緒に入部しました。二人とも、中学校でのサッカー経験がなく、ズブの素人からのスタートでした。私たちが在籍した時代は、岩淵、宮原両先生や柳川先輩にご指導を戴きました。チームはメンバー編成がようやく



と言う低迷期で、これという成績は残せませんでした。「貧すれば窮する」と言いますが入部しても途中で退部する者が多く出ました。然し、「何くそ」と猛練習に励んだ、その一人が番場君で、馬力のあるファイトマン、ポジションはレフト・バックでした。

2年生の時、先輩を訪ねてOB会費を集める仕事があり、彼が石原慎太郎さん（元東京都知事）の自宅（逗子）に伺しました。その後、芥川賞受賞でもない石原さん率いるサッカーチームと対戦、若く颯爽とした石原さんがフォワード、彼がバックスで対応しました。湘南が全国大会出場した時の壮行会に石原さんがいらしていたこともありました。ある時『OB名簿に石原さんの名前がないのは、岩淵先生が名簿から外すように命じたらしい。先生は「太陽の季節」が気に食わないようだ。』と彼から聞いたのも思い出の一つです。

石原さんは国政、都政の場でしたが、番場君は市政、県政の場で活躍されました。彼が、藤沢市会議員選挙に立候補したのは26歳、36回生の渋谷君が事務長を引受けてくれ、鶴沼中、湘南高、地元商店街の若い仲間が動いて上位当選を果たしました。

選挙は4年毎「毎回、試験に臨む心境だ！」とよく言っていました。市議員は3期12年。38歳の時に、新自由クラブから県議員に出馬、当選して6期・24年間（4回はトップ）務めました。平成10年、第91代の神奈川県会議員に就きました。当時の知事は28回生の岡崎洋知事で、県政・最大のテーマであった「破綻寸前の県財政」の立て直しを湘南コンビで進めたと、後日密かに話してくれました。

70歳の時、長年の地方政治に貢献した功績により『旭日中綬章』を授賞しました。彼は、議員の傍ら、藤沢サッカー協会会長、神奈川県サッカー協会副会長を務め、サッカー友の会を結成し日韓少年チームの交流などを行い底辺の拡大、平成14年ワールドカップ（横浜会場の準備）や平成10年の神奈川県国体にも陰ながら力を注ぎました。

彼は、業績の多くを語らず「たまたま与えられた仕事、これも皆さんのお陰だ！」が口癖でした。

引退後は、若い頃からの家業・米屋の縁で支援してきた、特別養護老人ホーム「鶴生園」（当時、鶴沼海岸）の理事長を引き受け、その移転

と「関野記念鶴生園」（石上）を開設しました。彼は、早くから老人福祉を政治生命の一つにしていましたので、介護の現場で最後のご奉公が出来たのではないかと思います。振り返ってみると、湘南サッカー部で培った忍耐とファイトの精神が、彼の人生を動かしてきたに違いありません。

令和2年9月15日、最愛のご家族に見守られ、天国へ旅立たれました。生前ご厚情戴いた先輩・後輩諸兄に、番場君に代わり深く感謝申し上げます。

## 番場定孝 先輩を悼む

56回生 水戸 将史

番場先輩の訃報に接し、心から哀悼の誠を捧げます。

初めて番場先輩を拝見したのは、まだ私が高校2年生でしたか、確かOB会にお顔出しされた時だった記憶があります。その時は、県議として、はにかむ様に挨拶をされていました。こちらとしては、初めて議員

という存在を間近で見た瞬間でしたし、「こんな先輩もいらっしやるんだ」という、素朴な印象でもありました。

いつの間にか私自身も政治に足を踏み入れ、1995年4月に駆け出しの県議としてスタートしました。その時、すでに番場先輩は5期連続当選で、県議会では押しも押されぬベテラン議員。また長く続いた長洲県政が終わり、岡崎洋さんが知事に就任されたときでもありました。

実は岡崎知事も湘南高校卒。ならば知事を囲んで同窓議員で一杯やろうと、当時、小泉親昂先輩も含め6人の湘南卒がいましたので、番場先輩からの一言で全員集合したのです。毎回2月と6月の定例議会が終わる度に、同窓のよしみで腹藏なく懇談させて頂いたのが、昨日のように思い出されます。

そして、1998年5月に番場先輩は第91代・県議会議長に就任されます。よく地方政治は、議会と行政が車の両輪と言われますが、この時はまさに両輪のトップが湘南卒でありました。さぞ岡崎知事も、番場先輩が議長になられたお陰で、かなり円滑な県政運営が出来たのではない



でしょうか。

その後しばらくして、私が国政へとチャレンジする際、所属政党が違っているにも関わらず、敢えて応援弁士を務めて下さいました。これは政治の世界では、相当リスキーな行為ですが、「水戸君は同窓だから仕方ないよ」の一言でして、先輩の男気に、ただただ頭が下がるばかりでした。おそらく、所属政党からは相応なお目玉を食らったことと思われ

ます。色々過去を辿ると、本当に番場先輩のお人柄が偲ばれます。先輩の面影は抜群で、議会では敵を作らず、また多くの県職員からも慕われておりました。番場先輩に比べれば、私自身、未だ足元にも及びませんが、先輩の面影を偲びつつ、精進努力して参りたいと存じます。

番場先輩、どうぞ天国から私たち後進をお見守り下さい。

## 岡本行夫君の死を悼む

39回生 小杉 博孝

五月八日の朝食後にテレビのトップで『岡本行夫君コロナで死去』と映しだされたのを見て、わが目を疑った。まさか岡ポンが？。聞くところによると四月十四日に入院して十六日に陽性が判明し、十七日には人工呼吸器を取り付けたが一週間後の二十四日に亡くなられたそう。志村けんさんや岡江久美子さんがコロナで亡くなったことがテレビで大々的に報道されていて、コロナの恐ろしさを感じてはいたが自分には関係がないと思っていた。初めて身近な人の死を知らされ暫らくはコロナにおびえる生活をしいられた。

昭和三十六年四月に湘南高校に入學してすぐにサッカー部に入学してそこで彼と出会った。やや内気だが感受性の強い性格だった。彼はゴールキーパーとして練習に励んでいた。シユート練習やフォーメイション練習では先輩の団井さんと交代でゴールマウスを守っていた。ゴールキーパー二人で陸上トラックの横の砂場でセービングの練習をしていたのを今でも思い出す。

サッカーに熱中していた彼は二年生の夏が終わるころ母親に諭されて受験勉強に専念するため、秋の岡山国体でのゴールキーパーのポジション

ンをあきらめてサッカーをやめてしまった。受験勉強に専念した甲斐あって現役で一橋大に入り、卒業後外務省に入省して、一九八八年北米第一課長に昇進した。一九九十年湾岸戦争当時、米国から自衛隊派遣を強く強いられた時には、自衛隊派遣の代わりに米軍の必要な軍需物資を提供することを計画して実施に動いた。戦争関与を拒む港湾関係者や航空関係者と粘り強く折衝に当たり日本の貢献を実現させた。

一九九一年外務省退官。岡本アソシエイツを設立して外交評論家となる。その後橋本内閣、小泉内閣で首相補佐官として沖縄普天間飛行場移設や、イラク復興支援で米国と現地との間に立つて計画の実現に向け活躍した。まさに、発言するだけではなく行動して結果を得る外交を実践していた。二〇〇九年には民主党政権下で行き詰った日米関係を打開すべく外交面での協力も行った。これらの功績を評価され、死後に正五位叙位、旭日中綬章を贈られている。

彼は実業家や教育者としても活躍し、数多の企業の取締役やアドヴァイザー、MITのシニアフェローをはじめ立命館や青山の客員教授を務めていた。まさに寝る間もないほど

の多忙さであったと思う。

我々同期生との集まりは数多くないが、鈴木俊邦君を偲ぶ中先生とサッカー部同期の会や中先生が赴任してきた時の三七回〜三九回生の集まりにも仕事の合間を縫って参加してくれて皆と旧交を温めてくれた。その時の印象は、若い時と同じや内気で寡黙な人であった。

官と民で外交の世界をアグレッシブに生きた彼は人生をとどまることなく疾風のように駆け抜けて去って行ってしまった。

どうぞ安らかに永眠ください。

合掌







ペガサス70は年度内86歳を筆頭に69歳以上のメンバーで構成されています(69歳は全国シニア県予選のみ)。活動は0-70、0-75、0-80等、

大会や交流会のカテゴリーに合わせ行っています。また全体では馬入ふれあい公園サッカー場で8月を除く毎週火曜日に行われている0-70神奈川交流会に参加しています。これは神奈川県サッカー協会の主催で行われ、加盟している6チームの合同組織です。全体の参加者が多い時には100名近くになり、ゲーム形式の練習を行ってきました。また月1回はロイヤルリーグと称してチーム別対抗戦を行っています。今年はコロナの影響で2月中旬から6月中旬まで4か月間活動が中止されました。再開後はコロナ対策を行って活動しています。

### 1. 0-70の活動

今年度は昨年と同様70代のメンバーで対外試合を行なっています。

またコロナの影響で公式戦が9月からやっと開始されました。

全国シニア県予選は2回総当たりから1回総当たりに変更され5試合戦いますが、10月末現在2勝1分け1敗です。県シニアリーグは5試合です。10月末現在1勝1分けです。

県外の大会は例年2月から11月にかけて行われますが、今年はコロナの影響で来年3月までのすべての大会の中止が決まっています。

ペガサス70の今年の傾向はどの試合も15名以上の参加者で試合を優位に進められています。試合ごとの人集めの苦勞がなくなりましたが、毎年若いメンバーを4ないし5名はそろえていきたいと思っています。そして坪井監督の目指している全国大会への出場を実現させたいと思っています。

### 2. 0-75、0-80の活動

0-75即ち75歳以上のペガサス会員は今年で22名とチーム編成が可能な人数となりました。0-70若手のメンバーも増えましたので、ことしはペガサス単独で0-75チームが出来る楽しみにしていました。しかし残念なことに全ての0-75大会が中止となってしまいました。0-80も中止です。年齢のことを考えれば、

多くの選手が集まるイベントの中止はやむを得ません。0-75の活動としては唯一首都圏0-75の交流会が年度半ばから開催となりました。出かけることが少ない高齢者が0-70や0-75の交流会に参加し、新型コロナウイルスに負けないように、日頃の運動不足を補い健康維持に役立てていました。来年度へ向けて一層の活動拡大をしたいと思います。



今年からトールラス60に入りました、46回生の溝口二郎です。

2020年度神奈川シニアリーグ六十雀2部が新型コロナウイルス感染症のため遅れて始まりました。参加して初めての公式戦初戦9/12対ウィットセタンサ0対3で敗退、次の9/19対平塚シニアFC60これが1対0で勝利、わがチームとしては2年ぶり久々の勝ちゲームというところで試合後何かしら皆さんに笑顔が感じられました。

私がユニホームを着て試合に臨むのはおそらく高校卒業以来です。ですからほぼ50年ぶりにもなります。まさかこの年齢になってサッカーをまた楽しめるとは自分のことながら不思議な感じがします。

そもそも何十雀などと年配の人間がやるサッカーが楽しめるものかと、私は自分でやってもせざるおそらく疑ってかかっていたのだと思います。ところが数年前のお盆休みに帰省した息子の高校時代のサッカー仲間が人数不足で、私が年甲斐もなく人数合わせで入ってみると、30歳以上の年の差があるので十分すぎるほど付度されていたとは言え、そこそこ楽しめたのです。それに味を占めたのだと思いますが、退職し自分の時間が少しはもてるようになった65歳を過ぎた頃からはボールを蹴る機会をさがしていました。出身中学のOB会や、退職した同僚から誘われたフットサルの試合などにもとびつきました。そして昨年11月横浜で行われた三校対抗戦に参加したとき、45回生の浅倉さんや同期の森君にお願いしてトールラス60に参加させていただきました。

グラウンドに立ってボールを蹴ることとは無条件で楽しいことです。ただ



し、思うようにボールが遠くに飛ばなかったり、思うように速く走れなかったり、張り切りすぎるとすぐに肉離れをしたり……ということはありません。キック力と走力をアップできればさらに楽しめるだろうとつくづく思います。そのために自分でトレーニングしてみるのもまた楽しいものです。慌てずにやって少しの進歩でも実感できると励みになります。私はまだ始めたばかりですが、長年にわたり続けている皆さんの知恵もお借りしながら、ピンピンコロリを目指してこれからもできる限りグラウンドでボールを追い続けたいと思います。



私がペガサスシニアサッカークラブに入会させていただいたのは、6〜7年前でしょうか？

昨年までは試合当日にグラウンドへ行き、勝っても負けてもプレーを楽ししみ、たまにはメンバーと飲んで騒

ぐ、というクラブ活動でした。正直なところチームの方針・編成・戦術などには全く無頓着でした。

しかし今年、代表とやらに据え付けられて『このままじゃいかなない』と感じているのかいなのか？？少なくともメンバーに迷惑をかけるように、メンバーとサッカーライフを楽しみたい、という思いです。参考には昨年のお話を聞いていたところ、昨今の今頃にはもう既にKSSLリーグは終了しており、2部で優勝して1部昇格を決めていました。

そして全国シニアの方もすでに7試合を消化していました。

しかし今年はコロナ禍で開幕が9月まで大幅にずれ込み、いまだにKSSLリーグは2試合、全国シニアは3試合しか消化していません。両リーグともに試合前2週間の検温が義務付けられ、試合当日には健康チェックシートを提出し、グラウンドの外ではマスク着用厳守など、今までは考えられなかった状態になっています。

しかしいろいろな制約があってもサッカー仲間とボールを蹴れるだけで大きな喜びを感じています。来年1〜2月まで続くリーグが何事

もなく無事に終われることを祈るばかりです。

では具体的に両リーグを振り返ってみましょう。KSSLリーグでは今季は1部での厳しい戦いが待っていると楽しみにしていました。

昨年のメンバーがほぼすっかり残り、かつ新メンバーの補強が進み、その融合もスムーズで、そこそこ戦えるなどというイメージはもっていました。

前述の通り未だ2試合しか消化していませんが、2戦2勝です。

昨年の1部上位グループの横須賀と神奈川シニアを見事に蹴散らして好調をキープしています。

毎試合参加者が多くかつ全員参加で臨んでいます。素晴らしいと感じるのはメンバーひとりひとりの意識が高く、ボールを最後まで追いかけるのが実践出来ていることです。

田中監督、佐久間キャプテンを中心にメンバーからの意見も汲み上げて、なかなかグッドなチームバランスで戦えていることもチーム力のアップにつながっています。

この調子で残り7試合も戦えれば、面白い結果が付いてくるはずですよ。

さて一方全国シニアですが3戦して1勝2敗ですが、いずれも拮抗した試合を展開しています。

ペガサスとトーラスの合同チームであり先輩後輩の交流も含めてメンバー全員が生き生きとプレー出来ていると感じています。

こちらでも毎試合全員参加で、先輩たちは先輩の威厳が保てるように張り、後輩たちはその先輩に負けなように張り切り、とても良い相互刺激になっています。

もちろん試合中の連携や読みという部分では満足できない点もありますが、合同チームとして及第点はもらえる戦いぶりです。(手前味噌?) 全国シニアは開幕の遅れと試合会場の確保の難しさから全体の試合数を減らすために昨年までの3ブロック制から4ブロック制になり、残すはあと2試合のみですが楽しく且つ厳しく戦い抜きたいと思えます。

最近届いた日本サッカー協会の機関誌『JFA news』10月号で『言葉の力』と言う特集がありました。その中にはなかったのですがサッカー選手の名言で好きな言葉があります。『良い結果を得たければ、良い準備が必要』デットマール・クラマー氏の言葉です。







やかにしてくれれます。少しでも心が動いたあなた、ぜひ藤原 (kjh03502@nifty.com) まじご連絡ください。



ペガサス40の会計担当をしております65回生の江副(えぞえ)です。今季のペガサス40の活動報告をさせていただきます。ペガサス40は従来から参加している日曜開催のKSSL(神奈川県シニアサッカーリーグ)に加え、今季から土曜開催の全国シニア選手権予選(O-40神奈川リーグ)にも参加しています。ここ数年はKSSLでは1部に定着し、上位をキープしていることもあり、より上のレベルを目指したいという機運が高まり、O-40にも参加することに決めたのですが、それには様々な課題も伴いました。

まず第一の課題は人数の確保です。土日2つのリーグに参加するには常時参加できるメンバーがそれぞれ20人は必要になる所ですが、昨季は登

録メンバーが28人いたものの実際に参加しているのは15人程度でした。そこでメンバーの知り合いなど各方面に声を掛けてもらったり、湘南高校OBの関さんや菅浦さんのご協力もあつたりなどして8人の新メンバーに加入してもらえらることになりました。次に土日の両立という第二の課題です。土日両方参加するのは、特に小さい子供がいる家庭にとつては時間的・経済的負担も大きい為、土曜か日曜のどちらか一方にしたいというメンバーも多くいました。そこで今季から監督に就任した同期の大隈(おおくま)とともに年会費を皆が払えてギリギリ赤字にならない金額に設定したりするなどして何とか土日両立できる人数が揃うよう調整しました。

そして第三の課題は戦術の共通理解です。メンバーが増えるということはお互いのことを知る為の時間もより多く必要になるので、一緒にプレーする機会を増やさなくてはなりません。そこで練習試合を数多く組むことにしましたが、2月に2試合実施した所でコロナウイルス感染症問題が発生し、その後は活動を自粛せざるを得ませんでした。それでも緊急事態宣言解除後の6月からは練

習試合を7試合組むことができた為、徐々にお互いの特徴を把握して関係も上がって行き、皆で意見を出し合いながらチーム戦術を構築していくことができました。

こうして様々な課題をクリアしてコロナウイルス感染症の影響で延期されていた9月のリーグ戦開幕を迎えることができました。10月末時点で土曜のO-40は3連勝と好スタートを切ることができましたが、日曜のKSSLは2試合が土曜との連戦となつて人数がギリギリだったこともあり、1勝3敗とやや苦戦しています。これは他の多くのチームも同様で、O-40では上位にいなながらKSSLでは2部に降格してしまうなど苦戦を強いられることが珍しくありません。

一方、土日両方で常に上位をキープし、さらに全国大会で好成績を収めているチームもあります。そうしたチームの共通点は毎年のように若手が加入しているということですが、強いチームだから優秀な人材が集まり、優秀な人材が集まるからさらに強いチームになるという好循環ができていくのでしょうか。残念ながらペガサス40はまだそこまでのチームにはなっていない。

しかしながら少なくとも今季加入した8人などはペガサスというチームに魅力を感じて加入してくれているようです。中にはブラジルやアルゼンチンでサッカー留学の経験があるメンバーもいます。まだまだ発展途上ではありますが、そうした新メンバーの加入もあり、確実にレベルが上がっているのを感じます。

そんなペガサス40に加入していただけのメンバーを募集しています。全国大会を目指したい、運動不足を解消したいなど目的は何でも構いません。ペガサスの基本方針は「サッカーを楽しむこと」ですので、楽しんでサッカーをしたい人であれば誰でも参加可能です。40代の皆さん、是非一緒にサッカーを楽しみませんか？



平素より大変お世話になっております。若手OBチーム、トトカルチヨ湘南の篠塚貴志(82回)です。今シーズンも神奈川県社会人リーグ3部(3



Bリーグ)で活動させて頂いております。昨シーズン同様に20歳台前半の選手がメンバーの大半を占めており、更に今シーズンはゴールキーパーも3名登録できました。充実した体制で臨めると思われましたが、COVID-19の影響で9月からのリーグ戦開始となりました。2月初旬までにリーグ戦全試合を消化すべく、例年以上に厳しいスケジュールで試合日程を組んでいる状況です。グラウンド確保が難しい中で、リーグ幹事のFC ARROWSを中心に、各チーム協力しあってリーグ運営を行っております。

今シーズンのトトカルチョの戦績は、10月末時点で2試合消化し、1勝1敗です。11月には3週連続の試合が予定されております。定期的に練習を行っていないトトカルチョにとって、まとまった時期に続けて試合ができることは、チームの連携を深める良い機会だととらえています。この連戦を生かして昇格の可能性を高められるよう、一つ一つの試合に集中して取り組んでいきたいと思っております。今シーズンは3Bリーグに強力な新規参入チームが2チーム加入しており、技術的・体力的にハードな試合が多くなる見込みですが、湘

南高校らしい粘り強い戦いをしたいと思えます。

現状、87回生(工藤・野崎・濱田)・93回生(杉原・内藤・丸山)まで概ね各学年のOBに登録者がいますので、若手OBの皆様は登録している同期に声をかけていただき、より多くの方に参加して欲しいと思います。私をはじめ、石川(86回)、長(88回)、町田(89回)など、サッカー部のコーチを務めて各学年に精通したメンバーもおりますので、気軽に連絡いただきたいと思います。86回生より上の学年は転勤等の都合で退団してしまつたメンバーも多いですが、後輩たちとサッカーをやりたい方はぜひご連絡ください。トトカルチョは先輩・後輩の垣根なく、ともに同じグラウンドで練習をした仲間として楽しく試合をしています。湘南高校サッカー部は私が在学中から2度顧問の先生が変わっておりますが、どの学年の選手も高い水準の基礎技術を持ち、原理原則を深く理解してプレーしているので、学年間の連携不足はあまり感じられません。それぞれ湘南高校のグラウンドで、真摯に練習に取り組んできたことを強く感じさせられます。湘南高校サッカー部OBとして今後もまだまだ

サッカー部OBとしてまとまってサッカーできる可能性を感じておりますので、今後も継続して若手OBのコミュニケーションの場で有りたいと思います。幅広い業界の先輩がおりますので就職活動、人脈形成にも役立ててもらえれば幸いです。

現役サッカー部が好成績を挙げ続ける中でトトカルチョ湘南はなかなか昇格に至っていない状況ですが、今一度、昇格に向けて努めていきたいと思えます。今後ともご指導・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



79回生の櫻井です。毎年、ビーチサッカー及び湘南スプレッドのことで書く機会をいただき誠にありがとうございます。

湘南高校サッカー部OBで立ち上げた、ビーチサッカーチーム『湘南スプレッド1545』は14年目となりました。

今年度は、Withコロナの中、競技そのものの開催が難しいシーズンでした。夏場のビーチの利用は制限され、物理的に会場確保が難しくなった他、社会情勢にも配慮しながら活動を自粛する期間が長期に渡りました。大会自体も、JFAの全国大会が中止となる等、全国各地で大きな影響があったものの、関東地域においては、関東大会と関東リーグが開催され、コロナ対策ガイドラインに基づき、競技を再開しました。しかし、大会が実施されたものの、仕事の関係や家族の理解が得られず、参加できないメンバーも出てきて、社会人として競技を継続できる日常の有難さを痛感しました。

スプレッドの今期の成績は、関東大会を5位で終え、関東リーグは、10月31日現在で、1勝4敗(残り2試合)となっています。一方、今期は、82回生の渋谷選手が海外駐在から復帰し、王者東京ヴェルディビーチサッカーチーム相手に、得点を決めるなど活躍しており、このまま好調を維持すれば、日本代表選出も見えるのではと思っております(ただ、招集されたとしても、平日1週間かけて実施される代表合宿に仕事を調整して参加できるのかという別の力も試さ



れます。併せて、89回生のGK楢枝選手が新加入する等、チーム力向上の兆しが見え始めています。引き続き、若手選手の勧誘活動を進め、2015年以降の関東ベスト3、全国大会出場を目標にチーム作りを進めていければと思います。

普及活動としては、毎年夏休みに藤沢市鵠沼海岸サーブビレッジ前にて開催していた小学生及び一般向けの「湘南藤沢ビーチサッカー大会」がコロナ禍のため、中止となり、第7回目は来年に持ち越しとなりました。来年の夏には、開催できることを切に願うばかりです。

今年の日本代表は、ラモス瑠偉監督が退任し、茂野羅オズ選手が、日本代表監督に選出され、日本代表監督兼選手として指揮を執ることとなりました。オズ選手は、丁度スプレッドを立ち上げた頃に、東京に来た同年の選手で、一緒に関東リーグを作り、試合をしてきた選手なので、感慨深いものがあります。来年のワールドカップはどうなるかわかりませんが、皆さん是非応援をお願いします。

最後に、この場を借りて、選手及びサポート頂ける方を募集させていただきます。少しでも興味を持って

いただいた方がいましたら、お気軽にご連絡いただければと思います。これからもビーチサッカーを通じて、皆様に良き知らせを届けられるよう頑張つて参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しく申し上げます。

**櫻井大輔**

(一財)日本ビーチサッカー連盟 評議員

関東ビーチサッカー連盟事務局長 (一社) 神奈川県サッカー協会 ビーチサッカー担当

藤沢市ビーチサッカー協会 理事 メールアドレス: sakuraid@jimconsult.com



OB会の皆様、今年度も多大なご支援を頂きましてありがとうございます。

今年度は昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響で例年とは大きく違った活動開始となりました。

関東大会予選、総体予選については感染拡大の影響もあり中止という、3年生にとつては昨年度末の海外遠征中止から学校の臨時休校とともに先の見えない期間が続きました。ようやく6月下旬から分散登校や時差登校などが徐々に始まり、部活動も少しずつ再開し9月の選手権大会神奈川県1次予選が始まりました。結果はご存じの通り1次予選ブロック決勝で市ヶ尾高校とホームでの対戦となり、無観客試合、35分ハーフで延長戦がなしの即PKというレギュレーション的にも厳しい戦いの中、数多くチャンスを作りながらも市ヶ尾高校のゴールを割ることができず、

昨年に続きPK戦で3年生は引退ということになりました。そんな過酷なコロナ渦の中の活動でしたが、3年生は一人も部を辞める選手はならず、最後までやり切ってくれました。例年とは大きく違う最終年度となつてしまいましたが、3年生にはサッカー部で培った忍耐力や継続力、やり切る力を今度は進路実現に向けた受験勉強に活かしてほしいと思います。今年度は大学受験に関してもコロナの影響が大きい事も予想されますが、サッカー部の進学についても年々より高みを目指した進学希望

の選手が多くなつてきております。また、大学でサッカーを本気で続ける選手も多くなつてきています。残りの高校生活を、3年生には是非最後まで諦めずに戦い抜いて欲しいと思います。

また、OB会の皆様には部活動自粛期間中にも関わらず様々な場面で3年生を気遣つて頂き、ご支援頂きましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、チームは新チームとなり、基礎基本の徹底を掲げてスタートしました。特に部活動再開時から徹底した止める、蹴る、ヘディング、対人練習を行っております。OB会現役情報でも発信されていますが、今年度、小柴健司氏が正式に部活動指導員という立場でスタッフに加わつて下さいました。以前からなんとか湘南高校サッカー部にお力添えを頂けないかと打診しており、この度念願かなつてご指導頂ける事になりました。部活動指導員という県の外部指導者の制度上単年度契約なので非常に難しい部分ではありますが、湘南の選手のために快く小柴氏が引き受けて下さいました。このご縁を大切に来年度以降も継続してご指導頂けるように選手並びに保護者と検討し



てまいりたいと思っております。OB会の皆様にもご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、来年の3月に予定していました湘南高校サッカー部海外遠征は今年度も中止となり非常に悔やまれますが、前回に引き続き今回も関係各所でご尽力頂きましたOB会の皆様には感謝を申し上げます。海外遠征再開についても今後検討していく事になると思いますが、クリアしなければならぬハードルも更に多くなると思えます。この中断で素晴らしい貴重な経験ができるサッカー部の海外遠征が途切れてしまわないようにと切に願っております。OB会の皆様のご支援なくしては成り立たない海外遠征の為、是非お力添えをよろしくお願い申し上げます。

今後とも引き続きの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



今年度も多大なる、また、温かいご支援をありがとうございます。2月からの未曾有のコロナ禍のなか、様々な面で現役生にお気遣いいただき、大変ありがとうございました。

今年度の3年生は非常に難しい期間を過ごすことになりました。年明けの関東大会のシード決定戦で第三シードを勝ち取り、さあ、これから関東大会に向けて、というタイミングで自粛期間に入り、また、心待ちにしていた海外遠征も中止とならざるを得ない状況になりました。年度明けも状況は変わらず、フィジカルトレーナーの小池コーチが配信するトレーニング動画や、栄養指導のWACアカデミーの村越さんの動画指導、今年度から指導に参加していただけることになった小柴氏の技術解説動画をもとに、各自でできることをやり続けるという状況が続きました。他校の動向もわからないまま、また個人での活動しかできない環境の中で、開催されるかわからない大会に向けて、モチベーションを維持しなければいけないという期間が続きました。もちろん、目標がある以上、それに向けて、その時にできることを全力で行ってくれていたとは思いますが、選手たちは非常に厳し

い期間を過ごしたと思えます。

高体連やサッカー協会のガイドラインに基づき、関東大会とインターハイは中止、リーグ戦を含む公式試合は9月以降に開催ということになり、臨める大会はリーグ戦を数節と選手権のみということが決定し、部活動再開後、コンディションの上がりきらない選手もいましたが、短い期間で選手たちは何とか結果を残そうと必死にがんばってくれたと思えます。

私が見ているセカンドチームの3年生も、なかなかアピールできる期間がない中、一人も脱落せず、最後までスタートメンバーを目指して頑張ってくれました。その必死な姿は、後輩たちに最後まであきらめず、目標に向けて愚直に頑張ることの大切さを伝えてくれたと思えます。またその姿勢は、サッカーだけでなく、今後の進路や彼らの人生にも役立つてくれると思えます。

さて、新チームとなり、現在は基本的な技術の向上と、球際で厳しさやヘディングなど対人技術を中心にトレーニングを行っております。竹谷先生の指導だけでなく、小柴氏の指導を体験できることは、指導者としても学ぶところが非常に多く、ま

た、選手たちも技術面だけではなく、精神面でも多くのことを学べているのではないかと感じております。このような指導者に公立高校で巡り合えるのも、湘南高校サッカー部の素晴らしいところだと思います。

これからも、竹谷先生、小柴氏をはじめとするスタッフ一同で、選手たちの成長を支えていければと思います。

今後とも、温かいご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



今回、現役報告をさせていただく富松大輝です。日頃より、OBの皆様の心強いご協力とご支援により、日々充実した活動を送れること、大変感謝しております。そのご支援への感謝の気持ちを忘れずに、ご期待に応えられるよう、仲間とともに日々精進していきたいと思えます。

今年度は新型コロナウイルスによる活動自粛などで、3年生にとって一



番大事な時期に思うような練習が行えませんでした。自粛期間は、部活動安全対策支援指導者である小池さんのトレーニングの例を参考に各自で練習メニューを考え、取り組んでいました。インターバル走や自重の筋トレなど、体力や筋力維持を目的とした練習が中心になりましたが、他にも少人数で集まり、簡単なゲーム形式の練習をしてボールに触れる機会を増やすなど、自粛が空けてからの練習に向けて高い意識を持ってそれぞれが練習に励みました。さらに、行った練習メニューやストレッチにかけた時間、体重、その日に笑った回数などを毎日記録していき、自分の努力や生活を可視化しました。それによって自粛期間の自分を客観的に反省、改善して生活水準を高めていくことができたのではないかと思います。

また、自粛期間が開けて部活動が再開したときには、サッカー部内のコロナ感染防止策を策定しました。策定では主に現2年生が中心となって意見を出し合って進めていき、これまでただ先輩の後ろをついて来た私たちにあって、先頭に立ってまとめ役を担う貴重な経験となりました。基本的に屋外で活動する私たちですが、集合時には距離を保って集まり、きびきびと活動する、給水コップの使い回し禁止し（各自コップ持参）など、普段から密を避け、明らかに感染経路となりそうなことは止めています。ピブスの共用禁止も感染対策の一つです。ピブスは生徒各自が揃って購入したものを練習や試合のたびに持参します。限られた練習時間を有効に使うため、リバーシブルで背番号と生徒の名前の他に、江ノ島と富士山と日の丸がデザインされています。この世に二つとないピブス、機会がありましたらOBの方々にもぜひ見ていただきたいと思えます。

心配なのは、コロナの影響で伝統ある部の行事ができていないことです。部歌の斉唱を中止していることも一例です。学校生活・私生活から部活へ頭を切り替えるため、練習の前に部歌を歌っていましたが、飛沫感染予防のため中止しています。部歌を歌えるようになることで部の一員になったと実感する新入生も多く、実際に私もその1人でした。他にも1年生だけの遠征や、夏休みの通い合宿など、集中的に練習できる機会を通して得られる仲間との絆や先輩後輩の関係性、体づくりや食事マナーなど、さまざまなことが1番伸びる『湘南サッカー部の夏』を1年生はまだ経験できていません。多くのことを学べる行事や合宿が再開できるのを心待ちにしていますが、今後は新しい生活様式の中での新しい形にも挑戦しなくてはならないのかもしれない。

今年から元日本代表の小柴さんに湘南高校の外部コーチとして練習を見ていただいています。小柴さんの練習は基礎基本の練習が中心で、一から丁寧に学んでいます。一見単調に思える練習ですが、継続して練習してきたことで少しずつ、止める、蹴る、の部分で簡単なミスを起こさなくなり、競り合いで安定した強さを持った選手も出てくるなど、チーム全体で基礎の面で成長を感じます。また、小柴さんや竹谷先生は選手として培ってきた経験を惜しみなく伝えてくださいます。非常に質の高い助言を受けられ、私たちはすごく恵まれていると感じています。

このような状況下ではありますが、部員一同、竹谷先生をはじめとする先生方・コーチの方々のご指導のもと、全国の舞台を目指しこれからも日々努力していきます。これからもご支援のほど、よろしくお願い致します。

## 編集後記

事務局長 48回生 関 佳史

▼2021年が湘南高校創立百周年、サッカー部も百周年となります。既報の通り「百年記念誌」は作成しています。90周年以降の出来事を記録するために、今回は拡大スペシャル版としました。2011年以降にコーチやったOBを中心に寄稿していただきました。また、監督以外の顧問の先生方にも寄稿をお願いしました。この他、長い間HPを作っていた浅倉さんにもその歴史をまとめていただきました。今後随時寄稿は受け付けますのでよろしくお願ひします。

湘南サッカーHP  
<http://www.shonan-soccer.com/>

▼名簿の整理にもご協力ください。会員が約千名いますが、毎年数十名の住所が不明となります。一方、2020年に湘友会が名簿更新を実施しています。このデータを近々いただけになりますので、照合作業を行う予定です。学年幹事の皆



さんにはメールにて、各代の名簿の最新版をいただくようお願いし、10学年分くらいはデータをいただきました。引き続き、各学年の名簿がまとまれば、関までデータをいただきたくお願いします。

▼関からメールアドレスのわかる会員に「湘南現役情報」を年に十数回発信しています。内容は、現役の公式戦の試合内容・結果です。得点経過、交代、ケガ人なども具体的に書いています。そのため、SNSの利用は控えています。現在、600程度のメールアドレスは把握できています。受信希望の方は関までメール連絡ください。

事務局長 関佳史 (48回)  
seki6644@yahoo.co.jp



### 現役戦績・現状報告

#### 〈総評〉

ここ数年、全体のレベルアップはしてきており、いわゆる取りこぼしは少なくなりました。ただ、今一歩上へ進む力が足りません。

ここを打開するには、以前から言われていましたが、基礎力「正確なトラップ・キック、ダッシュ」の向上が何より重要です。それにとともにプレースピードも大切です。

この基礎力を鍛えるため、今年度より学校公認コーチとして小柴健司氏に指導を依頼しました。小柴氏は鎌倉高校では県選抜。早稲田大学、日立製作所(現柏レイソル)、日本代表で活躍。その後県教員として、逗葉高校を高校選手権に導きました。竹谷先生が新任の時は、鎌倉高校とともに指導をした縁があります。

ここでコロナ問題が起きました。学校閉鎖や部活動の禁止です。実際に指導を始められたのは7月も中旬

でした。効果が十分に発揮できないまま公式戦に突入です。先に述べましたように、今年度の公式戦は関東大会・総体が中止になり、全国高校選手権のみとなり一次予選が9月に行われました。一・二回戦は横からの攻撃や中央でのダイレクトパスで得点を重ねることが出来、順当に勝ち上がりました。

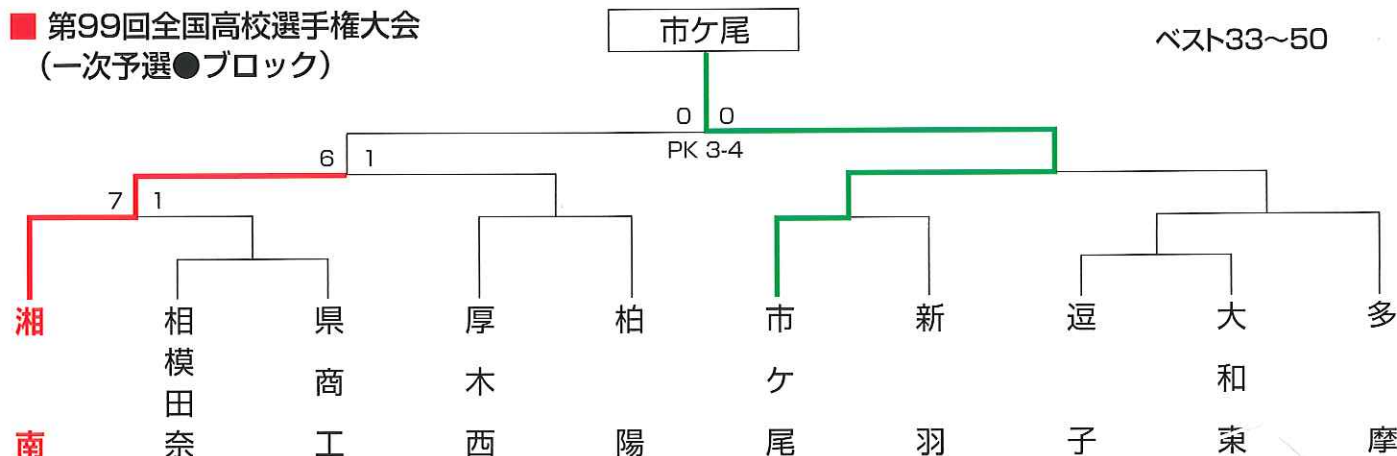
#### 〈ブロック決勝戦〉

9月26日湘南高校で行われ、市ヶ尾高校に0-0(PK 3-4)で敗退。立ち上がりから地域を押し込み、ボールを支配するがシュートまでなかなかいかず。後半も決定的なチャンスは作れず、終盤はシュートを放つがゴールを割れず試合終了。

守備を固めた相手の注文にはまり残念な結果となりました。

三年生は引退となりますが、辛い、悔しい思いをした一年だったと思います。この経験は「いつか役に立つ」と信じて前へ進んでください。そして卒業し、周りを少し見られるようになったら、OB会への協力をお願いします。

### ■ 第99回全国高校選手権大会 (一次予選●ブロック)







# 湘南サッカー部100年。 「特別協賛金」のお願い

是非  
ご協力を!

2020年12月吉日

## 湘南サッカー部100年。第三次「協賛金」のお願い(最終)

湘南サッカー部OB会  
会長 小泉 親昂

冠省

湘南高校の設立100周年(2021年)に際し、サッカー部OB会としても3年ほど前から記念事業の準備をしており、この事業費のための協賛金の募集を2年前より開始しております(一次、二次)。お陰様でOB会諸兄姉・関係者の方々からの協賛を頂いておりますが、一方で、残念ながら今だ予定額未達となっております。

つきましては、第三次(最終)の募集を実施することになりました。何卒、趣旨にご賛同いただき数多くの方々に協賛をお願いする次第です。 草々

記

### (1) 記念事業費の総額 450万円(予定)

【内訳】

- ①100周年記念誌×2,000部(配布先:湘南サッカー部OB、現役(10年先位まで)、関係者など)
- ②記念式典費用補助(招待者・現役生など、約100名分の負担)
- ③記念グッズ(Tシャツを想定、今回協賛者や記念式典参加者への配布など)
- ④雑費(記念誌・記念グッズの配布や連絡などの費用、他)

※上記450万円には、OB会100周年事業向け積立金(約200万円)を含む

### (2) 募集要領

- ①募集対象: 湘南サッカー部OB・関係者(任意)
- ②募集期間: 2021年1月~7月(第三次最終)
- ③協賛金額(一口):

・一般:10,000円/一口 ・特別:50,000円/一口

- ④協賛金振込み口座:(OB会費口座とは違います。ご留意願います!)

横浜銀行 藤沢中央支店(店番号:618)

・口座番号(普通) 6206726

・口座名 湘南高校サッカー部OB会 100周年事業

※OBの方は、お振込み人氏名の前に、卒業年次(回)を入れて下さい

(例)50回 湘南太郎 ⇒ 50カイ ショウナン タロウ

- ⑤会計報告:2021年度のOB会報にてご報告予定

尚、余剰金は本事業の決算後に、総てOB会の会計に組み入れます

- ⑥100周年事務局(会計担当): 沢田ミツル(50回生)

E-mail m-sawada\_bmc1956@jcom.zaq.ne.jp

Tel 090-1660-7461



## [令和2年度 会計報告・予算案]

### 収入

	令和2年実績	令和3年予算
会費・寄付	1,337,000	1,370,000
前年度繰越	59,748	615,032
スペイン遠征繰越金	400,000	
利子	0	0
計	1,796,748	1,985,032

※収入見込み 社会人 145名、学生 40名が納入 10,000×105名+ 5,000×40名+ 3,000×40名

### 支出

	令和2年実績	令和3年予算
現役寄付(付属戦補助含む)	500,000	500,000
蹴球祭	72,311	90,000
スペイン遠征関連費	キャンセル料 135,000	積立 900,000
通信・事務費	118,405	100,000
印刷費	156,000	180,000
100周年積立へ	200,000	200,000
繰越金	615,032	予備費 15,032
計	1,796,748	1,985,032

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、8年前より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしくお願いいたします。現在積立金は、¥2,200,540 - です。

また、100周年事業に関しては現在、幹事及び各世代代表と話し合い「記念誌」発行への作業を進めております。

イベントに関しては今後の課題ですが「実行委員会」をつくり検討していきます。こちら各各位のご協力をお願い致します。

### 現役寄付・会計報告 令和元年11月15日～令和2年11月10日

収入		支出	
前年度から繰越	0	遠征補助	0
寄付	500,000	トレーニング用品等	147,281
その他	0	筑波大附属定期戦	0
計	500,000	会場・試合等	131,119
		参加費等	0
		海外遠征関連	0
		ボール	171,600
		コーチ費用	50,000
繰越金	0	計	500,000

## [3年度会費納入の件]

2年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。(振り込みには卒業年を入れてください)

- ・社会人 1口 5,000円
- ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166  
 湘南高校サッカー部OB会  
 武藤俊一 TEL. 0466 - 34 - 9329

### お問い合わせ・ご質問は

#### [ホームページアドレス]

湘南サッカー  で検索。

湘南サッカー部OB会  
<http://www.shonan-soccer.com>

#### [メールアドレス]

関 佳史 (事務局)  
[seki6644@yahoo.co.jp](mailto:seki6644@yahoo.co.jp)

武藤俊一 (事務局)  
[muto-s@jcom.home.ne.jp](mailto:muto-s@jcom.home.ne.jp)

横山雅行 (事務局)  
[m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp](mailto:m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp)



グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

## [蹴球祭・総会のご案内]

期日：1月10日(土)

場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

皆様のご参加をお待ちしています。

09:30~10:50	若手紅白戦(現役参加予定)
11:00~12:00	総会 幹事会は9:30~11:00
*この時間にペガサスは練習できますが、OBは総会に出席してください	
12:15~12:30	現役交歓式
12:30~13:30	食事
13:30~15:30頃	原則40以上「OB+ペガサス交流戦」

\*新型コロナの状況および現役の試合結果(12月)により  
内容変更の場合があります。ご了承ください。

\*受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

\*グラウンドでのプレー時以外、マスク着用は必須です。よろしくお願いいたします。

